参考資料２

令和６年度 長野県こども・若者モニター事業

第２回こどもモニターアンケート調査結果
（子どもの社会参画意識等について）

令和６年11月

長野県

調査の概要

1. 調査対象者

- 長野県内の小学５年生～高校３年生（もしくは同等年齢）
- モニター登録者数　小学生125名　中学生102名　高校生（もしくは同等年齢）61名　合計288名

2.第２回アンケート調査期間

- 令和６年10月18日（金）～令和６年10月31日（木）

3. 調査方法

- 依頼方法：こどもモニター登録者のメールアドレスへ回答URLを送信
- 回収方法：県からの受託事業者（（一財）長野経済研究所）のアンケートシステムによるWEB回答

4. 回収結果

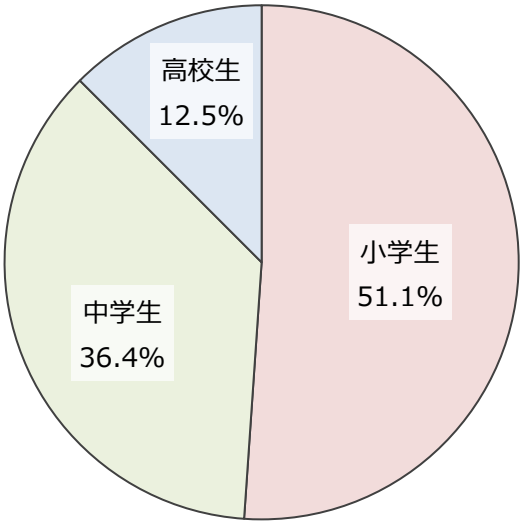
- 回答者数　184名（小学生94名　中学生67名　高校生23名）
- 回収率　63.9％

5. その他

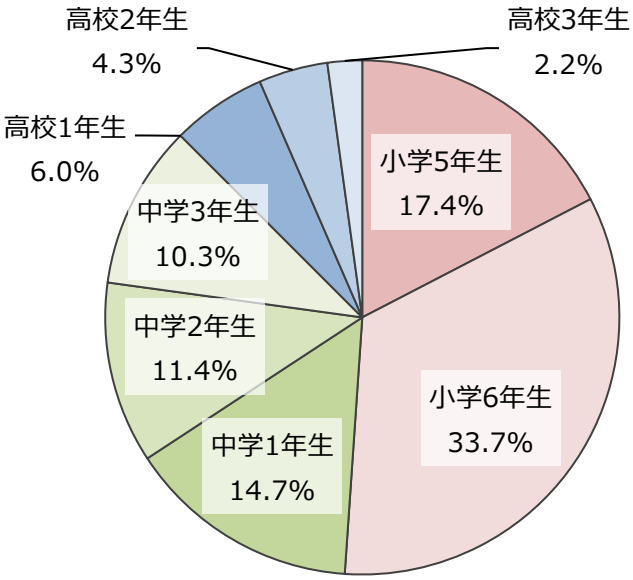
- 四捨五入の関係により、構成比の合計が100％にならない箇所がある。
- 問６～12は「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（令和５年度）」（こども家庭庁）と同様の設問をし、結果の比較を行った。ただし、全国調査と今回の調査では対象年齢が異なっていることに留意する必要がある（全国調査の対象年齢：満13歳～満29歳、回答者数：1,089名）。

問３　モニターの年齢層

- 回答があったモニター184名の生年月日をもとに年齢（学年）を集計した結果、小学生：94名（51.1%）、中学生：67名（36.4%）、高校生：23名（12.5%）という結果だった。



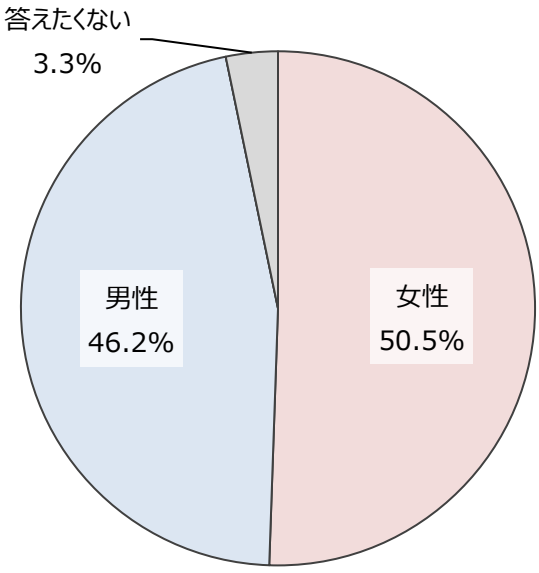
n=184



n=184

問４　モニターの性別

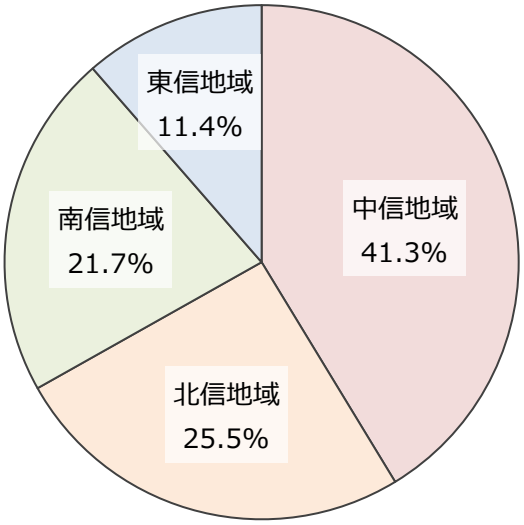
- モニターの性別は、女性：93名（50.5%）、男性：85名（46.2%）となり、第１回アンケートと同様に大きな偏りなく回答を得ることができた。



n=184

問５　モニターの居住地域

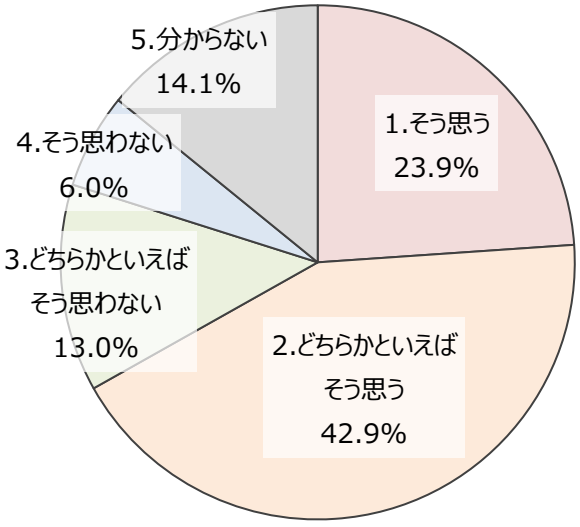
• 住んでいる地域は、中信地域（41.3%）が最も多く、東信地域（11.4%）が最も少なかった。



n=184

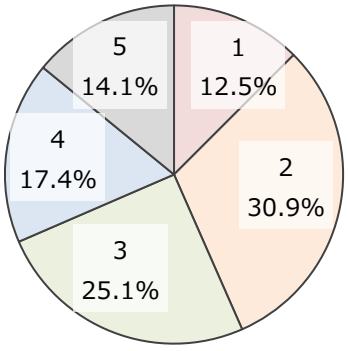
問６　社会をよりよくするための問題解決に関わりたいか

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は６割を超え、全国調査の結果（約４割）を大きく上回った。また、「分からない」の割合は、全国調査と同じ14.1%であった。
- 年齢層別に「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合をみると、小学生：61.7%、中学生：70.1%、高校生：78.3%と、年齢層が高くなるにつれて社会の問題解決への参加意向が高くなる傾向にあることが分かった。



n=184

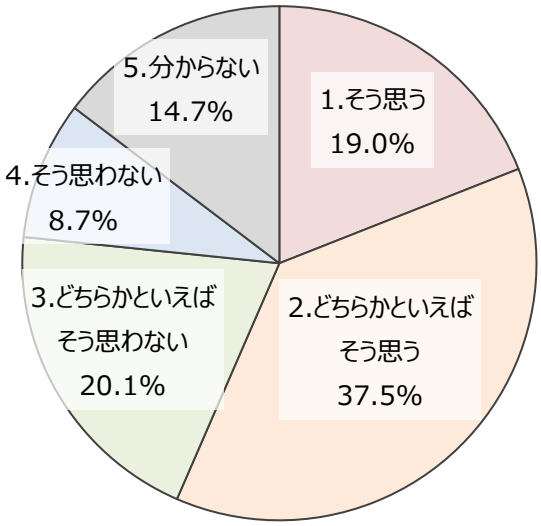
【参考】全国調査



n=1,089

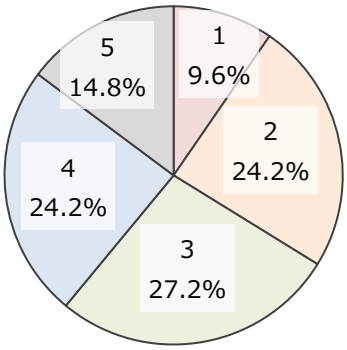
問７　将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したいか

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が５割を超え、問６と同様に全国調査の結果（約３割）を大きく上回る結果となった。
- 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合を年齢層別にみると、小学生：30.9％、中学生：23.9％、高校生：34.8％だった。また、「分からない」を選んだモニターの割合は、小学生：14.9％、中学生：16.4％、高校生：8.7％だった。



n=184

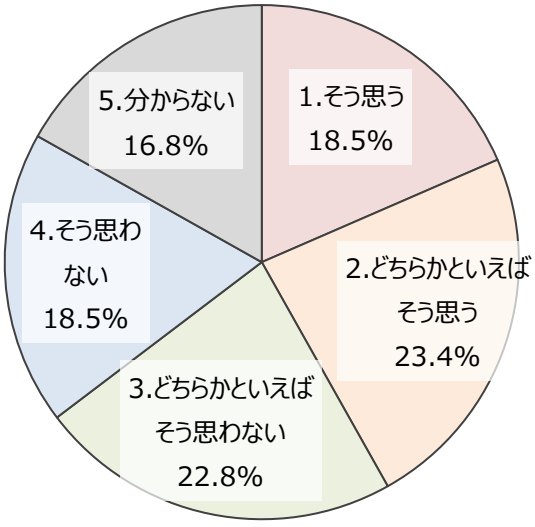
【参考】全国調査



n=1,089

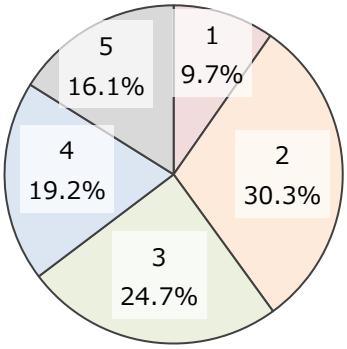
問８　政策や制度については専門家の間で議論して決定するのが良いと思うか

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は約４割となり、全国調査の結果とほぼ同様であった。
- 「そう思う」と回答した割合は高校生において高く（30.4％）、「そう思わない」と回答した割合は中学生で高かった（23.9％）。



n=184

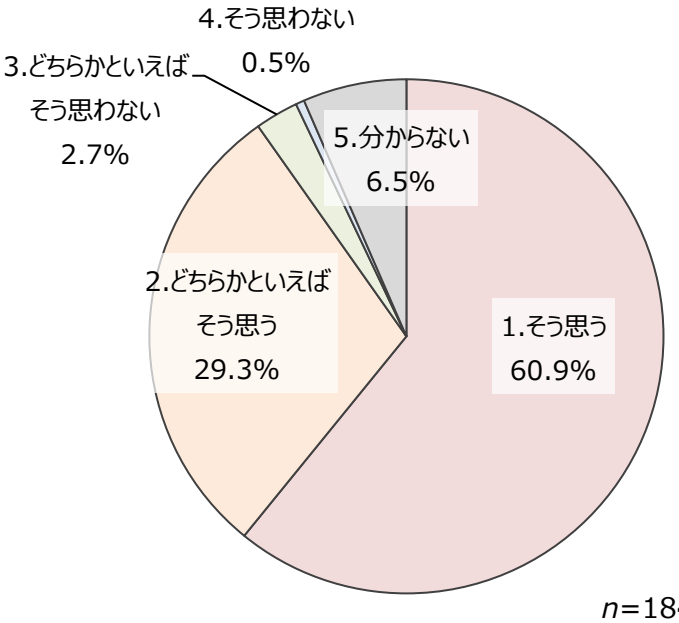
【参考】全国調査



n=1,089

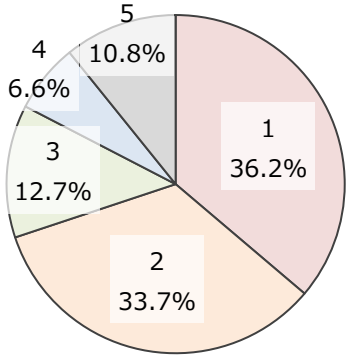
問９　こどもや若者が対象となる政策や制度についてはこどもや若者の意見を聴くようにすべきと思うか

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は９割を超え、全国調査の結果（約７割）を上回った。特に、「そう思う」の割合は全国（36.2%）よりも24.7ポイント高かった。
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を年齢層別にみると、小学生：85.1%、中学生：94.0%、高校生：100.0%と、年齢層が上がるにつれて割合は高くなった。



n=184

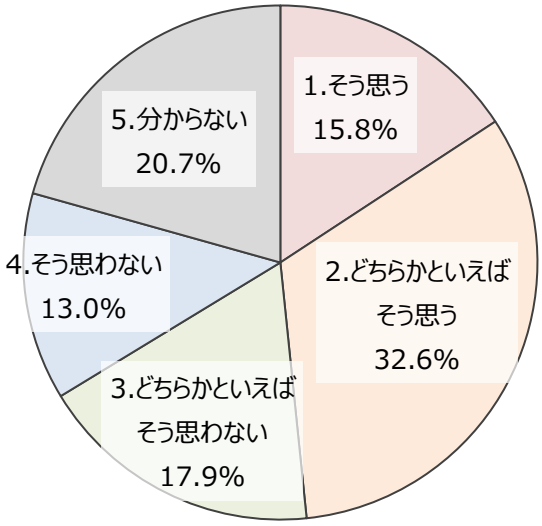
【参考】全国調査



n=1,089

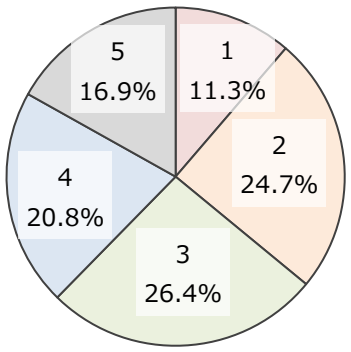
問10　私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれないと思うか

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は約５割であり、全国調査の結果（約４割）を上回った。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計は約３割であり、全国調査の結果（約５割）を下回った。
- 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合を年齢層別にみると、小学生：26.6%、中学生：32.8%、高校生：43.5%と、年齢層に比例して割合が高くなった。



n=184

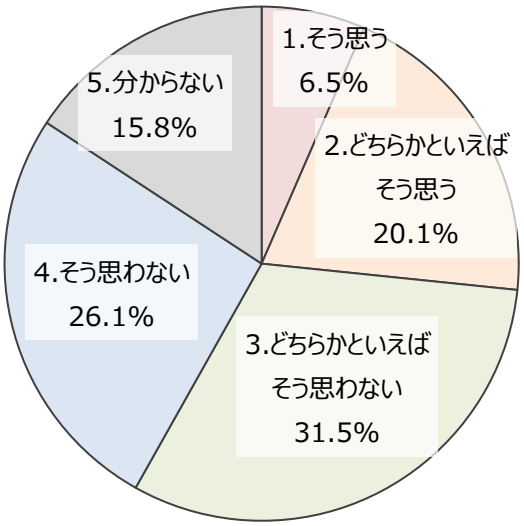
【参考】全国調査



n=1,089

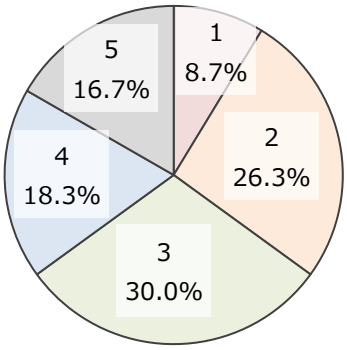
問11　社会のことは複雑で、私は関与したくないと思うか

- 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計が約６割となり、問６「社会をよりよくするための問題解決に関わりたいか」と同様に、社会への関与に積極的なモニターの方が多い結果となった。この傾向は全国調査の結果でも同様だったが、全国の割合は約５割だったため、本調査ではより顕著な結果がみられた。



n=184

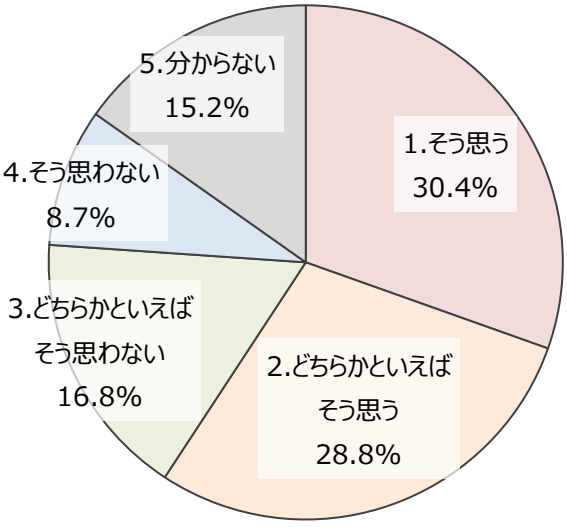
【参考】全国調査



n=1,089

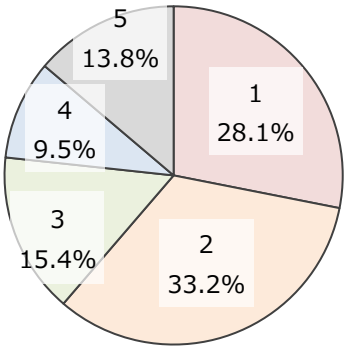
問12　私個人の力では政府の決定に影響を与えられないと思うか

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が約６割という結果だった。全体の傾向に、全国調査と大きな違いはみられなかった。
- 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合を年齢層別にみると、小学生：27.7%、中学生：25.4%、高校生：17.4%と、年齢層が高くなるにつれて割合は低下した。



n=184

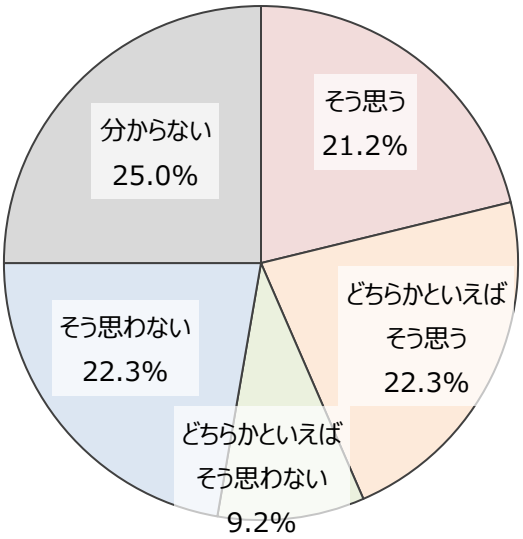
【参考】全国調査



n=1,089

問13　選挙権年齢が18歳になったので、被選挙権年齢（25歳または30歳）も18歳に引き下げるべきと思うか

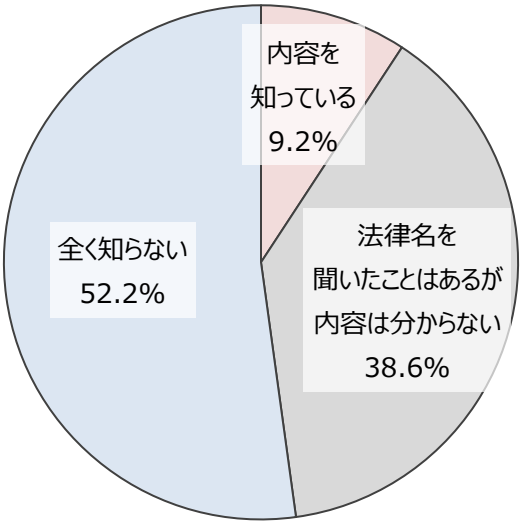
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計（約４割）が、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計（約３割）を上回った。
- 一方で、4人に１人が「分からない」を選択し、他の設問に比べて割合が高かった。



n=184

問14　令和５年４月に施行された「こども基本法」を知っているか

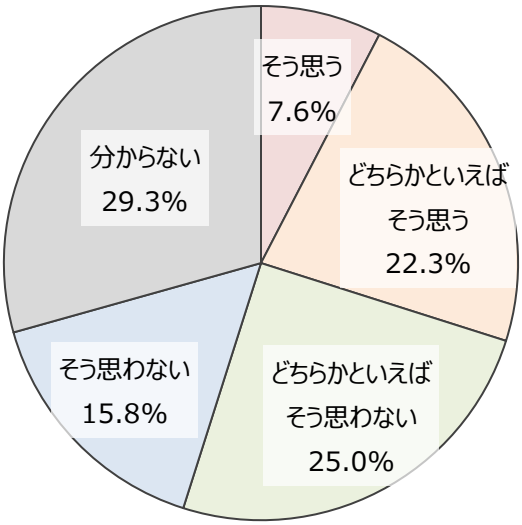
- 「全く知らない」が半数を超えた。
- 「法律名を聞いたことはあるが内容は分からない」割合は、年齢層に比例して高くなる傾向がみられた。（小学生：30.9％、中学生：41.8％、高校生60.9％）



n=184

問15　子ども・若者の意見が県の取組などに活かされていると思うか

- 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計（約４割）が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計（約３割）を上回った。
- また、約３割が「分からない」を選択した結果から、県の取組が子ども・若者に十分に認知されていない現状が考えられる。



n=184

問16　子ども・若者の意見を県の取組などに活かすために、どのような仕組みが必要だと思うか（自由記述）

- 約３割のモニターから具体的な回答があった。主な内容は下記のとおりであった。

年齢層	内　　容
小学生	・学校を通して授業や講演等、考える機会の場を増やす。 ・学校単位で県と共同で意見交換会やイベントを主催、参加する。 ・行政が現在やっている取組を、先生が学年に合わせて説明をし、それについての意見を募る機会を県が主導してつくる。 ・知事、こども若者局長と子どもたちでの対話（先生を含む）。 ・県の大人が小学校の子どもたちに直接話を聞きに来ることが必要だと思う。 ・今回のようなアンケートや、ネットを通じて気軽に意見を伝えることができる仕組み。
中学生	・政治家と学生の意見共有の場の創出。若者が議員等と対等の立場で意見を言ったりできる機会をつくる。 ・学校で今の長野県で変えてほしいところを一斉調査し、県が気になることを書いた人を集めて会議をする。 ・取組を知ってもらうためにYouTubeに広報動画を投稿する。ネタを散りばめて、話題になるように。 ・一人一台支給されている端末からいつでも意見を入力できるよう、GoogleClassroomにフォームをつくる。
高校生	・学校の中で、県の政策や取組について考える機会があれば、関心を持つことにつながる。 ・フランスの学校のように、生徒の代表が教員会議に参加する仕組みのようなもの。 ・難しいアンケートを定期的に行うよりも、イベントやふれあい活動を通して楽しみながらの方が子どもたちからの意見を聞きやすいと思う。 ・意見を聞くのもいいが、円滑に実行しやすい仕組みが必要だと思う。

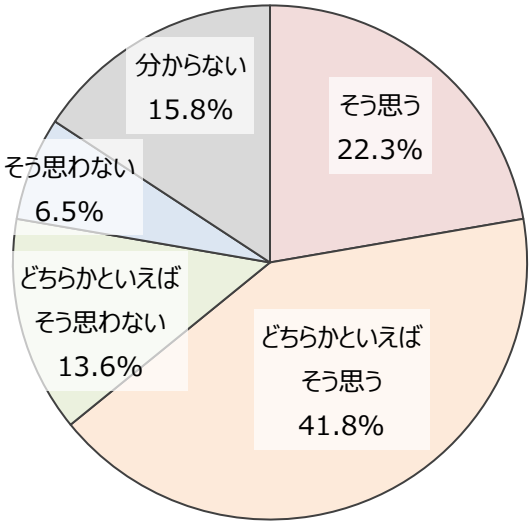
問17　普段の生活の中で、子ども・若者の視点に立っていないと思ったことや状況はあるか（自由記述）

- ３割弱のモニターから具体的な回答があった。主な内容は下記のとおりであった。

年齢層	内　　容
小学生	・放課後児童センターの時間帯が親の仕事の時間帯と合っていないので、一人で家にいないといけない時間が多い。 ・部活動の地域移行は指導者不足もあるだろうけど、気軽に子ども時代に色々なスポーツに触れられる環境を奪わないでほしい。 ・運動会の点を無くすとか応援団を無くすとか、放課後は校庭で遊んじゃいけないとか、もっと子どもの意見を聞いたほうがいいと思う。 ・田舎を売りにしようとしているところ。 ・選挙権年齢が18歳になったのはいいことだが、もっと選挙制度やどんな政党があるのかを学校でも教えてほしい。子どもだからまだ早いというのは、子どもに失礼だと思う。 ・長野県は長期休みが短い割に宿題が多い。他の県が羨ましい。
中学生	・学校の制服など、理不尽なルールが多い。児童や生徒の意見を聞かずに、職員会議で決められるルールが多い。先生に意見を伝えても、聞いてはくれるが取り入れてくれない。 ・生徒が制服を着ないといけないなら、先生も毎日スーツを着てくるべきだと思う。 ・校則で決められている制服のジャージは下着が透ける。 ・年配の人たちは、自分たちはこうだったっていう意見を押し付けてくる。見た目で判断したり、学校に行かないことがすごく悪いことみたいに言う人もいる。 ・平日にあるイベントや教室は大人が対象のものばかり。子どもは学校に行っていることが前提で、子どもが参加できるものは夕方からか土日のものばかり。同年代が苦手なので、異年齢の教室やイベントに参加したい。 ・交通手段があまりない。 ・学校給食費の無償化によって給食の品質が下がる。
高校生	・県立・市立学校の環境が悪い。結局学校任せで、改善が進まない。 ・遊ぶ場所（商業施設）が少なかったり、勉強できるフリースペースが少ない。また、医療費や教育にかかるお金が無償ではないということ。 ・長野県出身の大学生が住める寮が、男子寮ばかりなこと。改修が必要だからと後回しにするのは大人の都合であり、長野県の女子が自分の学びたい大学で学問を追求することを妨げているように感じる。

問18　子ども・若者の人権は尊重されていると思うか

- 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合を年齢層別にみると、小学生：18.1％、中学生：19.4％、高校生：30.4％と、年齢層に比例して割合も上昇した。



n=184

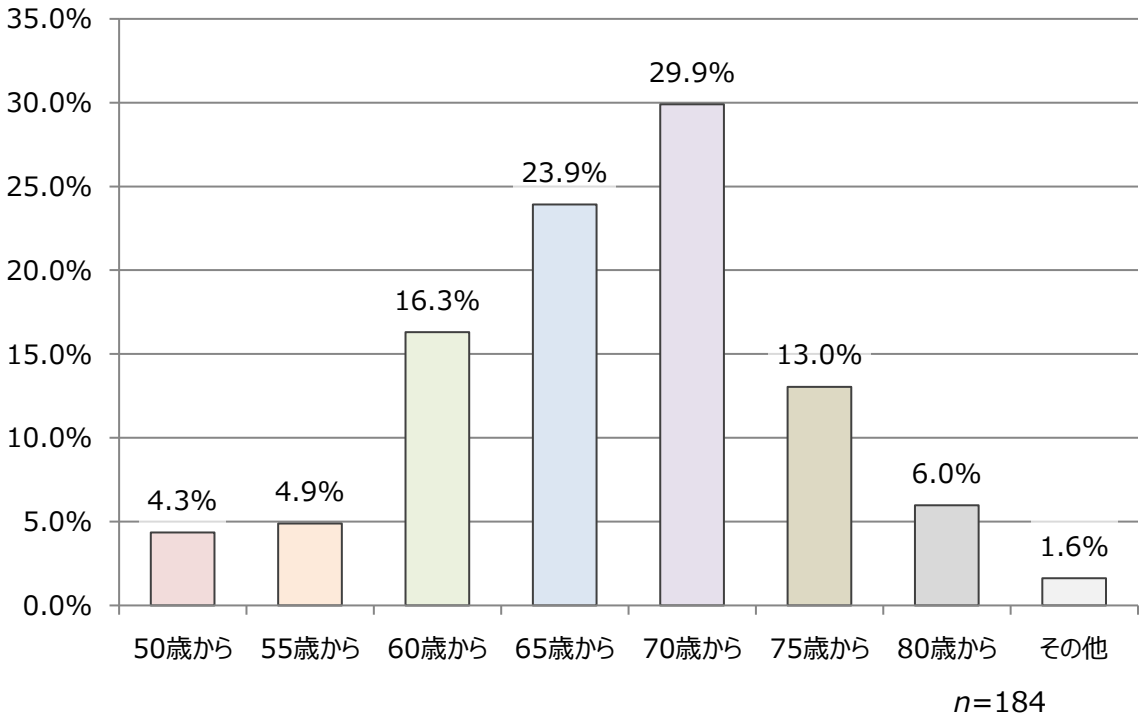
問19 普段の生活の中で、子ども・若者の人権が尊重されていないと思ったことや状況はあるか（自由記述）

- 約１割のモニターから具体的な回答があった。主な内容は下記のとおりであった。

年齢層	内　　容
小学生	・中学の部活がなくなるのは、子どもの意見を聞いてからにしてほしかった。部活がやりたいという子どもが多いのになくなるのはおかしい。 ・世帯収入のせいで行きたい進路を選べない。 ・大人は、子どもたちの問題の核心的な部分について先入観を持っているように思う。 ・ジェンダーについて、上の世代の人たちがいまだに理解が足りないと思うことが多い。 ・「子どもなんだから勉強しなさい」「今がこんなんじゃ将来困る」などと他の子が言われているのを聞いてとても怖かったのを覚えている。 ・挨拶をしても返してもらえない。
中学生	・平日に外出していると「あれ？今日学校は？」と言われることが多い。子どもにも有給休暇のようなものが欲しい。 ・生活保護家庭が、集団から低くみられることがあること。 ・児童や生徒の意見を聞いてもらえない。 ・勉強や宿題が強制されていて、できないと先生に叱られ、友達が減り、いじめを受けること。
高校生	・講座の参加者募集の掲示物などに、学生は不可と書かれているとき。 ・子どもは親の庇護対象なのだから、大人の言うことを聞くべきだ、と大人から言われたとき。対等でない立場に疑問を感じ尊重されていないなと感じました。

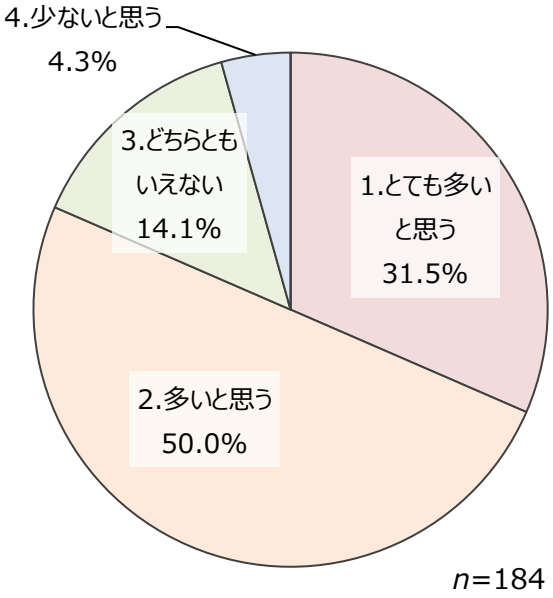
問20 「高齢者」は何歳からをイメージするか

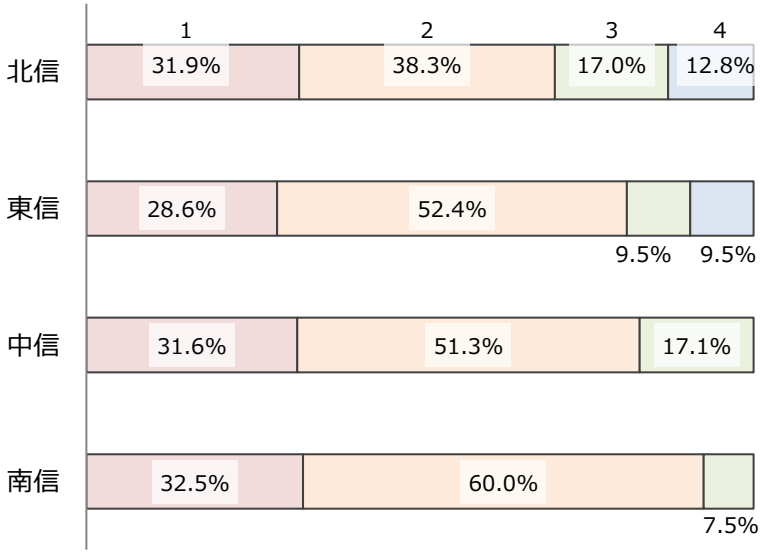
- 「70歳から」が高齢者だという意見が最も多かった。
- 「その他」では、「自分が高齢者だと思ったとき」などの回答がみられた。



問21　あなたの周りには（長野県には）元気な高齢者が多いと思うか

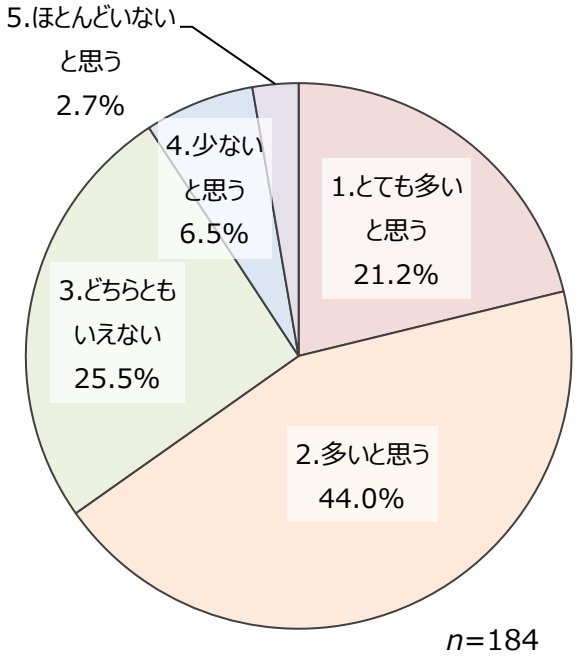
- 「とても多いと思う」と「多いと思う」の合計が８割を超える結果となった。
- 「とても多いと思う」または「多いと思う」と回答した割合をモニターの居住地域別にみると、南信地域が最も高く（92.5%）、北信地域が最も低かった（70.2%）。

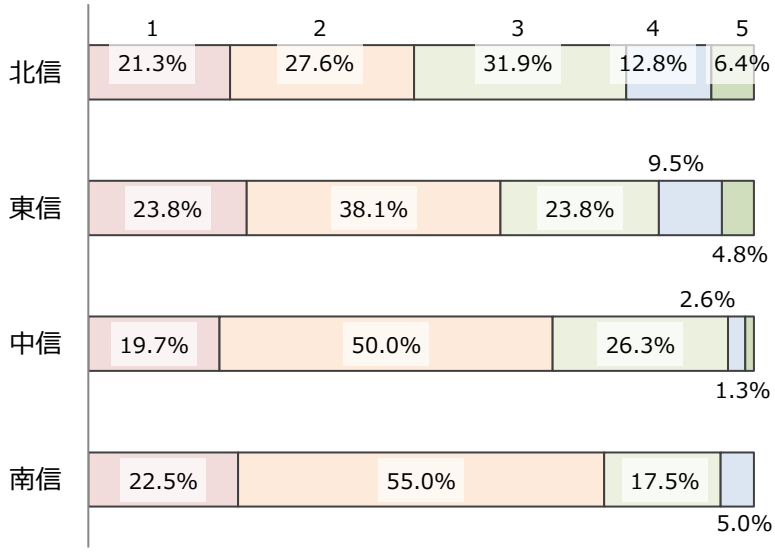




問22　あなたの周りには地域で活躍している高齢者がいるか

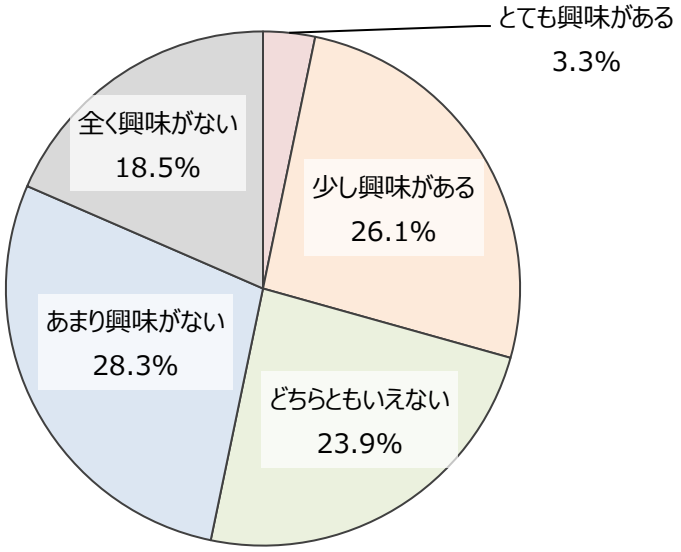
- およそ3人に２人が、「とても多いと思う」または「多いと思う」と回答した。
- 「とても多いと思う」または「多いと思う」と回答した割合をモニターの居住地域別にみると、問21と同様に、南信地域が最も高く（77.5%）、北信地域が最も低かった（48.9%）。





問23　福祉や介護の仕事に興味はあるか

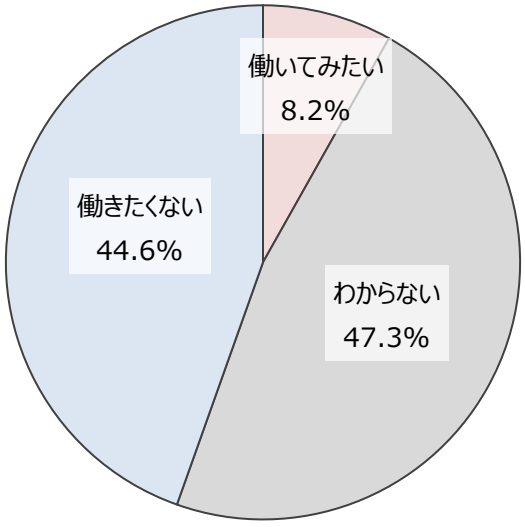
- 全体の半数近くが「あまり興味がない」または「全く興味がない」と回答した。
- 「あまり興味がない」「全く興味がない」と回答した割合は、年齢層による違いはほとんどなかった一方で、女性（43.0%）よりも男性（52.9%）の方が高かった。



n=184

問24　将来介護や福祉に関わる仕事をしてみたい（働いてみたい）と思うか

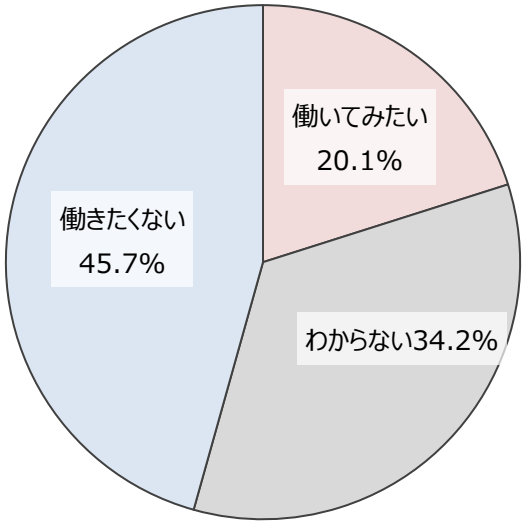
- 「働いてみたい」と回答した割合は１割未満という結果だった。問23で「とても興味がある」と回答したモニター６名は、いずれも「働いてみたい」と回答した。
- 年齢層別に「働きたくない」と回答した割合をみると、小学生：40.4%、中学生：49.3%、高校生：47.8%だった。



n=184

問25　将来保育園や幼稚園の先生の仕事をしてみたい（働いてみたい）と思うか

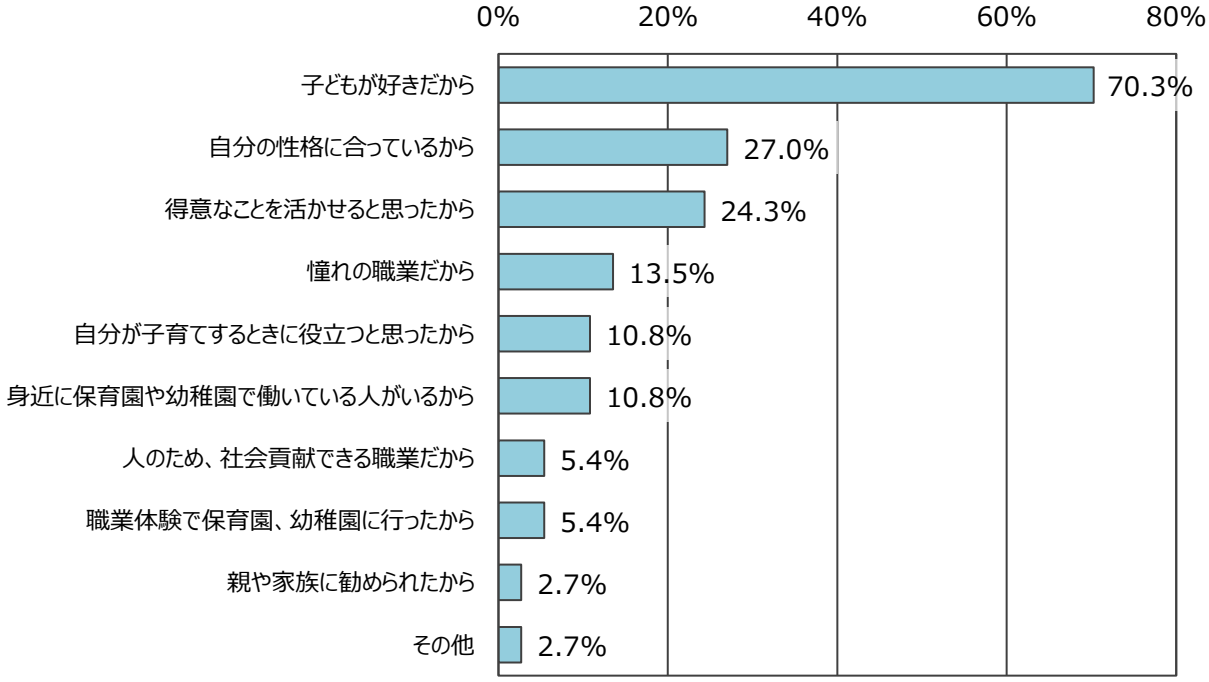
- 「働きたくない」の割合は問24の介護・福祉分野とほぼ同じだったが、「働いてみたい」の割合はこちらの方が高かった。仕事の内容がイメージしやすかったことが要因と考えられる。
- 性別ごとに「働いてみたい」と回答した割合をみると、女性：28.0%、男性：11.8%だった。



n=184

問26　問25で「働いてみたい」と答えた理由（問25で「働いてみたい」と回答した方が対象。３つまで複数回答）

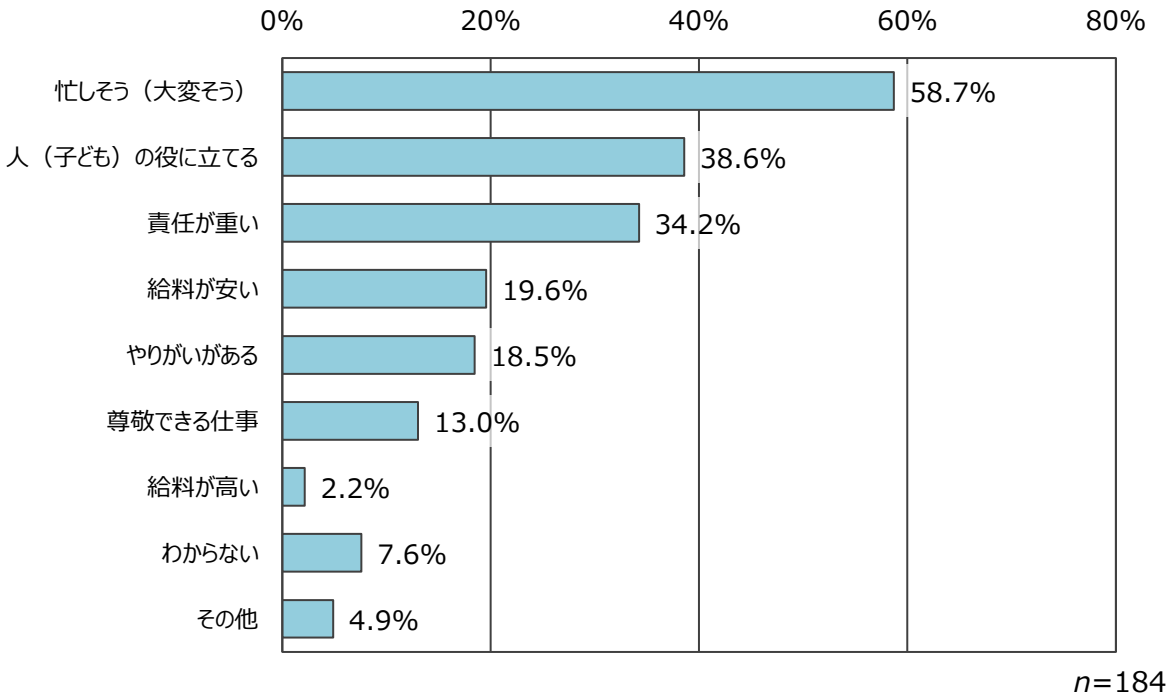
- 対象者のうち、７割のモニターが「子どもが好きだから」と回答し、割合が最も高かった。「自分の性格に合っているから」や「得意なことを活かせると思ったから」といった、自分の適性を理由とする回答がこれに続いた。



n=37

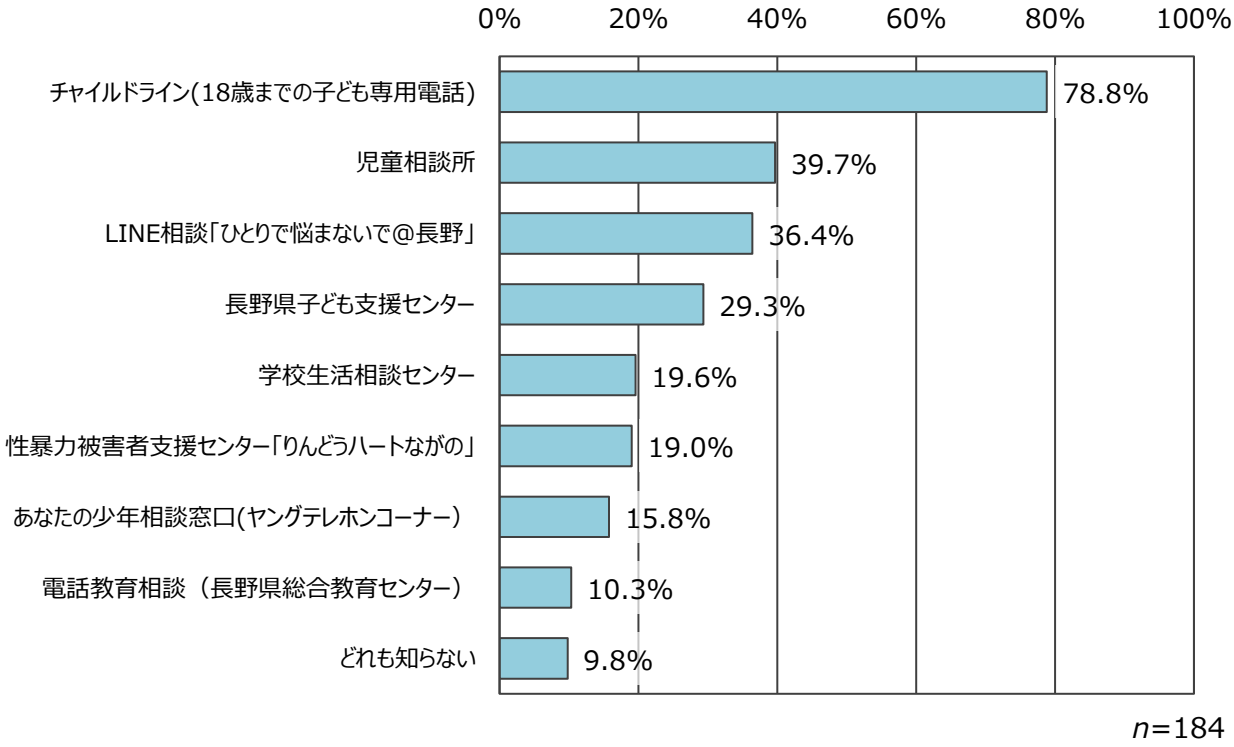
問27　保育園や幼稚園の先生の職業にどんなイメージをもっているか（３つまで複数回答）

- 「人（子ども）の役に立てる」が４割弱の回答があった一方で、「忙しそう（大変そう）」や「責任が重い」など、負担の大きい仕事であるというイメージが先行していることが分かった。こうしたイメージが、問25における「働きたくない」の回答につながっていると思われる。



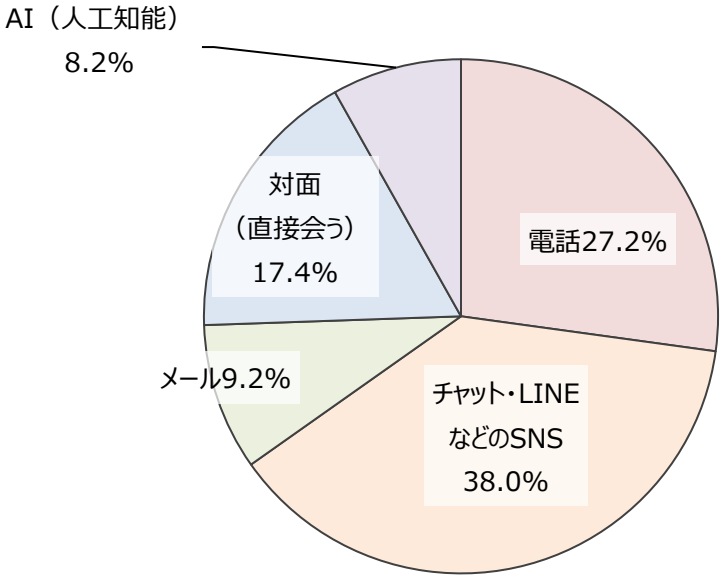
問28　あなたが知っている子どもの相談窓口（あてはまるものをすべて選択）

- 「チャイルドライン」が約８割で最も多く、「児童相談所」「LINE相談」が続いた。



問29　あなたが相談窓口に相談をするとしたら、どの方法が最も良いか

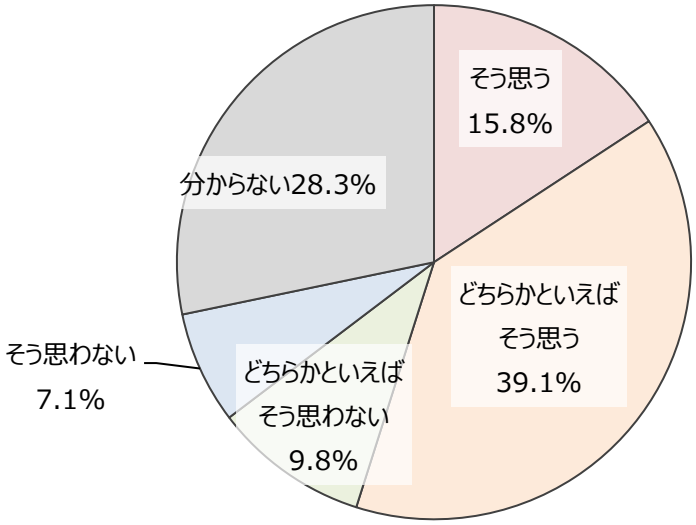
- 「チャット・SNS」と回答した割合は小学生で28.7％と低かったが、高校生では56.5％だった。自分のスマートフォンを持っていないと思われる層は、電話や対面の回答が多い傾向にあった。



n=184

問30　長野県は子どもが相談できる体制が充実していると思うか

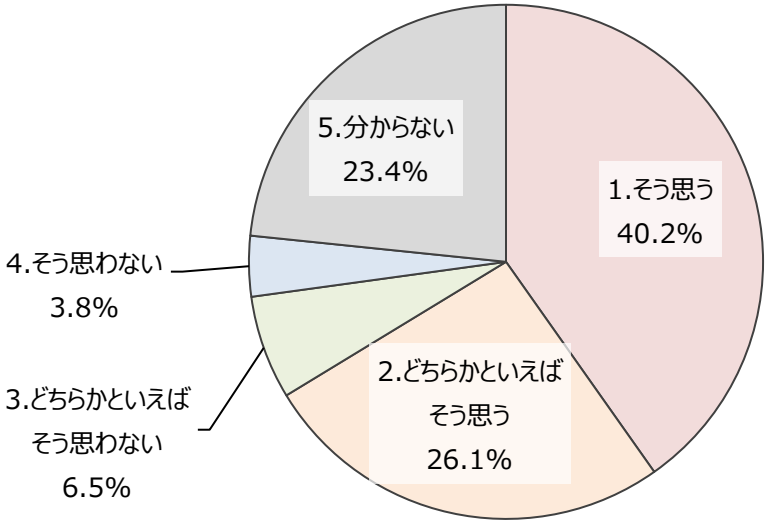
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が５割を超えた一方で、「分からない」が約３割を占める結果となった。
- 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合を年齢層別にみると、小学生：14.9％、中学生：19.4％、高校生：17.4％だった。



n=184

問31　長野県で子ども向けの情報をまとめたホームページやアプリがあれば良いと思うか

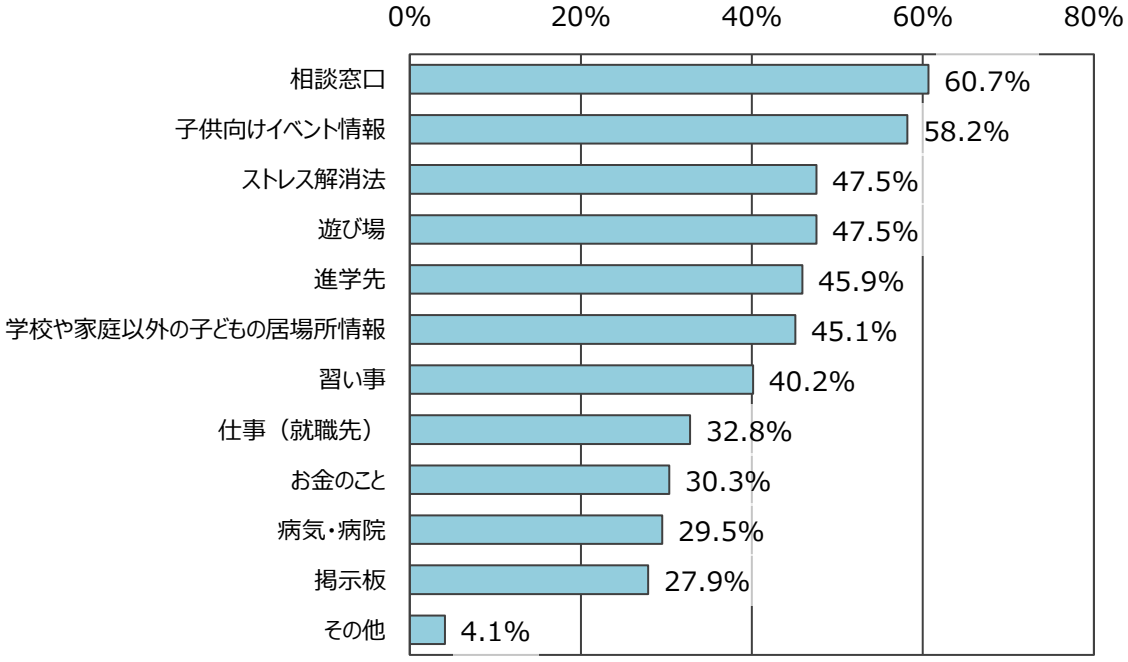
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が６割以上となった。これらに回答した割合を年齢層別にみると、小学生：64.9%、中学生：70.1%、高校生：60.9%だった。



n=184

問32　問31のホームページやアプリにどういった情報や機能があると良いと思うか（問31で１もしくは２と回答した方が対象。あてはまるものをすべて選択）

- 「相談窓口」が最も多く、「子供向けイベント情報」が続いた。これらの上位２項目について年齢層別の傾向をみると、小学生は「子供向けイベント情報」を選択した割合の方が高く、中学生及び高校生は「相談窓口」を選択した割合の方が高かった。



n=122（うち無回答 ２名）